JAPAN CREATIVITY SOCIETY
日本創造学会
JCS NEWSLETTER

第４１回日本創造学会研究大会

大会テーマ：創造性とイノベーションの新展開

2019年9月28日(土)～29日(日)
於：北陸先端科学技術大学院大学

國藤 進
大会委員長
（JAIST名誉教授）

姜 理恵
実行委員長
（JAIST准教授）

永井由佳里
プログラム委員長
（JAIST教授・副学長）

川路崇博
副実行委員長
（久留米大学准教授）

金 恩英
国際部門担当
（JAIST准教授）

有賀三夏
国際部門担当
（東北芸術工科大学）

日本創造学会第41回研究大会は石川県能美市の北陸先端科学技術大学院大学（JAIST）で、2019年9月28-29日に開催されます。今年度の特集は**「創造性とイノベーションの新展開」**です。東京大学名誉教授の丹羽清氏、JAIST名誉教授の國藤進氏、四画面思考研究所代表取締役の近藤修司氏の招待講演等を企画しました。

今回の特色は通常の会員による研究発表以外に**国際セッション**や**高校生セッション**を設けました。国際セッションは国際会議スタイルの英語セッションです。高校性セッションは地元名門高校のポスターセッションです。またJAISTが世界に誇る**JAISTギャラリー**、情報環境等の見学会を行います。懇親会は北陸No.1のおもてなし温泉旅館**「まつさき」**で行われます。

会員が年に1回集う研究大会で、会員同士の親交を温める機会でもあります。創造性とイノベーション研究の最前線を学び、次なる両者の発展を図る絶好の機会です。会員・非会員を問わず北陸の**「知の梁山泊」**に結集し、お互いの知の相互研鑽で共創しましょう。

基調講演

國藤進
北陸先端科学技術大学院大学名誉教授

招待講演１

丹羽清
東京大学名誉教授

招待講演２

近藤修司
（株）四画面思考研究所
代表取締役

参 加 要 項

参加申込： **2019月6月30日締切**　※参加のみを希望する場合は8月末まで受付
大会Websiteから申込書がダウンロードできます。
http://www.japancreativity.jp/conference/41st/index.html
【日本語での発表・参加のみの場合】
日本語申込用紙に記入しメールで送付　送付先：**jcs-info@japancreativity.jp**
申込書到着後、事務局より執筆要項等を送付。
【英語での発表】
英文申込書に記入しメールで送付　送付先： **jcs2019pc@jaist.ac.jp**
※論文執筆については国際セッションWebsiteのPaper Submissionを参照。
http://www.japancreativity.jp/conference/41st/international_session.html

論文掲載料：**【日本語・英語での発表】**
４ページを基準とする。掲載料2000円
４Pを超える場合１Pにつき￥1000を加算、最大８Pまで。

原稿締切：**【日本語での発表】7月31日まで**
【英語での発表者】7月31日まで（最終締切8月31日）

参 加 費：　**正会員￥7,000　学生会員￥5,000　非会員¥10,000**

懇親会費：　一人￥7,000（希望者、会場は旅館まつさき）

宿泊施設：　旅館まつさき1泊朝食付き10000円（希望者、4～5名での和室相部屋）

現地交通：　大会会場から懇親会場までバスを運行。懇親会後は金沢駅周辺までバスを運行。

北陸先端科学技術大学院大学へのアクセス

JR 小松駅から本学までの間には連絡バス「JAIST Shuttle」(小松駅線)(無料・予約制)が運行しています。

北陸鉄道鶴来駅から本学までの間には連絡バス「JAIST Shuttle」(鶴来線)(無料)が運行されております。

▲▼▲第58回クリエイティブサロン（2019年 3月16日）開催報告▲▼▲

第1部講演会：「父、中山正和の思い出」

講師：渡辺秋津氏・渡辺勝利氏 （中山正和先生ご息女）（元日本工営コンサルタント事業部主任研究員）

今回登壇いただいのは、創造工学研究所所長、評論家、日本創造学会創設メンバーでNM法の開発者だった、故中山正和先生のご長女である渡辺秋津氏とそのご主人で渡辺勝利氏。
講演概要として「父、中山正和が亡くなるまで一緒に暮らしていた思い出」と題して
・NM法を確立した頃の父・父と一緒に仕事をした人からの父のエピソード・夫が父から教えて貰ったこと・年代別に出版した本をご紹介等、書物や残された記述からは知りえない、身内だからこその貴重なお話をいただいた。中でも心に残ったのは、サラリーマン（電電公社）時代、研究者としての破天荒なエピソードや、ヤマハ楽器を１年で退職し、大和技術研究所で自主研究や企業の委託研究をやるもののうまくいかず、ひたすらチューリップの絵を描き続け、1962年頃、忽然と企業研修の講師として身を立て、NM法を創造し、指導先企業においてスーパーヒット商品を生み出し、1995年創造工学研究所を解散するまで58冊もの書籍を上梓し、その半数が重版となったこと。代表作として『発想の論理』25版、「創造思考の技術』21版、『創造性開発の訓練』『知恵の構造』11版、『創造工学的手法』『カンの構造』10版など次々とロングセラーを生み出していった。
　また、娘さんへの心温まる愛情教育や同居していた娘婿どのが、講師として壁にぶつかった時「落語を聞きに行きなさい」と深い気づきをアドバイスするなど公私にわたり、ヒトを育て、勇気づける達人であったことがうかがえた。講演を聞いて最も印象に残ったのが、実の娘さんである秋津さんの「父、中山正和はハンサムでおおらか、大酒のみでオープンで、本当にいい男でした」と語る表情が本当にうれしそうだったこと。当方も、現世で終止符を打ち、クラウド上に住処を替えた後、実の娘にそう言われたいものだと心底思った。
（記事：豊田貞光）

第2部講演会：「オープンファクトリーによる知識移転－伝統産地のイノベーション」

講師：中丸山一芳氏 （東海学園大学准教授）

第58回クリエティブサロンにて知識創造や知識移転を鍵概念に、イノベーションを研究している立場から近年注目を集めている「オープンファクトリー」に関して講演させていただきました。「オープンファクトリー」は全国20か所以上の産地で開催されているイベントです。工場や工房などにおいて職人やモノづくりに従事する人々が、普段は公開していないモノをつくりだしていく複数の現場を一定期間公開し、それを来場者に体験してもらう取り組みです。代表的なものは新潟県燕三条地域の「工場の祭典」です。この祭典は、域外の若者やクリエーターを惹きつけるピンクストライプの印象的なグラフィックに象徴される取り組みで、産地の活性化と優れたデザインを理由にジャーマン・デザイン・アワード2019で受賞したほか著名な国内外のデザイン賞を受賞しています。さらに、ミラノサローネへの招待や、ジャパン・ハウス・ロンドンでの展示などを通じてこのオープンファクトリーは紹介されており、海外から燕三条地域の職人技が注目されるきっかけとなりました。そのことから、ロイヤル・カレッジ・オブ・アートの学生が燕三条地域に訪れるなどクリエーターやアーティストと職人の交流がはじまっています。さらに、国内では燕三条地域の「工場の祭典」の見学をきっかけに、福井県鯖江市を中心とした地域で「RENEW」と題した工芸を中心とするオープンファクトリーのイベントが開催されています。新潟県内でも十日町市の着物産地、五泉市のニット産地でオープンファクトリーが開催されはじめており、後継者問題などの同じ課題を有している産地と産地がオープンファクトリーを通じて交流し、知識移転や知識創造をおこなっているのです。普段は見せることのない工場や職人の技をあえて公開し、来場者と職人が直接交流することが、産地の中小企業に新たな知識移転を生んだり、技能承継者を発掘したり、異業種とのコラボレーションを実現したりするのです。このイベントと行政の関係性や、資金の調達や組織のマネジメントなどについてたくさんのご質問をいただきました。貴重な議論の機会をありがとうございました。
（記事：丸山一芳）

2017-18年度出版の著作賞のエントリーを募集します

著作賞の応募期間は2年毎で、今回の第7回日本創造学会著作賞は2017-2018年度内に発行された著作が対象となります。募集期間は5月15日までの予定です。エントリーフォームはこのニューズレターの巻末に添付します。応募の著作や資料の返却はいたしません。
（著作は希望者には１冊返却しますが、エントリー時にその旨を申し出て下さい。著作は査読者が精読しますので、新品同様での返却はできません。）
詳しくは下記「著作賞選考規程」をご確認の上、ふるってご応募下さい。

日本創造学会「著作賞」選考規程

下記の「応募基準」を満たした全エントリー著作に関して、「著作賞選考委員会」が審議して候補を決め、理事会において承認し、ニューズレターで公知する。エントリー期間は、基本的に2年毎とする。受賞件数は著作の質に依存するので明確には定めないが、概略、数件程度を目安とする。

[応募基準]

1. 応募の規定年度内に出版されたISBN取得の著作であること。
2. 単著または共著または編著・監修とする。共著の場合、応募者が第一筆者またはそれに準ずる内容量を担当した筆者であることとする。編著・監修の場合、応募者が編著・監修の筆頭責任者であることとする。
3. 著作の内容は、創造性研究・実践に関する学術的または実践的なものとする。
4. 年度ごとの同一著者によるエントリーは1件までとする。
5. 過去の著作を改訂した再版は応募資格があるが、増刷は応募資格なしとする。
6. 会費完納の会員であること。

[応募手続き]

Ⅰ．自薦の場合

1. 学会事務局より送付される、エントリーフォームに必要事項を記載し提出する。
2. 著作の概要をA4版2枚以内（3千字以内）にまとめたもの3部（著作のオリジナルな点を明記する）を提出する。
3. 審査用に著作を3冊日本創造学会に寄贈する。
   ※応募書類・著作・資料の返還は行わない。（著作返還希望者はエントリー時に申し出る）

Ⅱ．他薦の場合

1. 他者を推薦できるのは学会賞委員のみとする。
2. 他薦する場合、著者に推薦者より連絡をとり、両名のどちらかがエントリーフォームおよび自薦の場合と同等の形式で著作の概要を書き3部を提出する。
3. 学会への納本については、最低1冊は寄贈し、残り2冊については著者より借りる（寄贈でも良い）。
4. 他薦エントリーの場合、納本やエントリー条件を満たす書類の事務局への送付などは基本的に推薦者が手続きの責任を負う。
5. 学生会員も推薦対象になる。
   ※応募書類・資料の返還は行わない。貸与された著作は著者に返還される。

[選考基準]

以下の点等に基づいて、選考する。

1. 学術的な価値の高いものであるか。
2. 実践的な価値の高いものであるか。
3. 創造性研究・実践の新たな地平を拓くものであるか。
4. 世界の創造性研究・実践に影響を与えるものであるか。
5. 受賞対象が共著・編著・監修の場合、著作中の本人執筆の割合も考慮し、評価の対象が執筆内容であるか、編集・監修の技術か等、選考委員会が妥当と思われるカテゴリーの賞を選定する。
6. 社会的評価の高いものであるか（下記の諸点に関して社会的評価がわかるものがあれば添付する）。
   ・他者の研究に引用されている。・基調講演やシンポジウム等の文献となっている。
   ・新聞・雑誌等の書評で紹介されている。・海外で翻訳されている。
   ・インターネット等で言及がある。
7. 応募著作により、学術部門と啓蒙部門に分けて選考することができる。
8. 著作賞の質を守るために、「該当なし」の結論になることもある。

■■国際創造学会連合会のロゴマーク・デザインを公募します■■

国際創造学会連合会の英語表記はIACI（International Association of Creativity and Innovation）で、創造性研究を行う世界各国の学術団体の連合体です。

募集内容

ロゴマーク（文字から構成されるロゴ）を公募します。
ロゴタイプは「IACI（International Association of Creativity and Innovation）」

応募要件

日本創造学会会員はどなたでも応募できます。（プロ・アマを問わず）
応募点数は一人２点まで。
応募作品は、応募者自身が創作したもので未発表のものであり、かつ、他の著作物等からの流用や模倣を行っていないものに限ります。

採用された作品の著作権は国際創造学会連合会・日本創造学会に帰属するものとします。

応募作品の作成方法は、デジタルデータとします。（手書き不可）
※ファイル形式は、ＪＰＥＧ、ＧＩＦ又はＰＮＧ
※データ容量は３ＭＢ以下、解像度は３５０ｄｐｉ程度で作成すること

公募期間

２０１９年４月１日～２０１９年４月３０日

公募の流れ

1　応募
会員氏名・所属・連絡先を明記の上、応募作品を日本創造学会事務局にメールで提出してください。（電子メールでの提出先：　jcs-info@japancreativity.jp）

2　審査と決定
日本創造学会2019年5月の理事会で審査し選ばれた作品（2点まで）を、国際創造学会連合会に推薦して7月中に決定してもらう予定です。
※作品の応募や採用に際して作者への報酬はありませんが国際創造学会連合会のウェブサイトで作者を紹介します。

会員の著作紹介

著作名　：　**イノベーション創成の研究開発マネジメント**
著者名　：　櫻井敬三（日本創造学会会員、日本経済大学大学院）
出版社　：　文眞堂　　発刊日　：　2019年2月28日
定　価　：　2916円（本体 2700円＋税）

欧米追従型からイノベーション創成型の研究開発マネジメントへ変身せよ。
技術に関わる人のための必読書。豊富な事例で納得。好著である。
日本の技術革新がうまくいっていない。
オープンイノベーションや外部依存研究開発で乗り切れるか。
本書は、

① 真の研究開発とは
② イノベーションを育てる組織とは
③ 技術リーダー戦略とは
④ イノベーション創成戦略と研究開発事業化戦略とは

をわかりやすく事例で解説する。
経営者、研究開発責任者、担当者に読んで実践いただきたい。

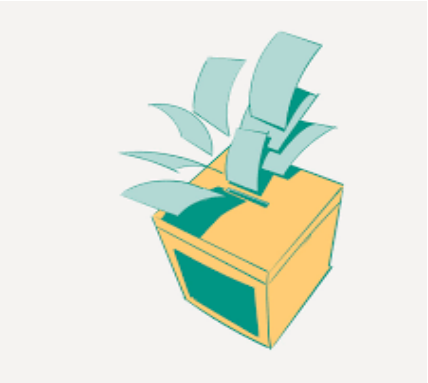
著者割引（20%引）での購入ができます。
日本創造学会ニューズレターを見たと表記の上、住所、電話番号、氏名、購入希望冊数を明記。
1冊の場合は送料200円。2冊以上は送料不要。
左記のアドレスに直接発注してください。　eigyou@bunshin-do.co.jp

●●●新入会員紹介●●●

入会者（入会順）

氏名	会員種	所属	住所	専門分野
小波盛佳	正会員	小波技術士事務所	千葉県	粉体工学・技術者倫理・技術文書学
多賀万里子	正会員	富士通㈱	神奈川県	教育工学・新事業創出
魚地朋恵	学生会員	慶應義塾大学大学院	東京都	楽観性・ コーピング・自己効力感

役員選挙の投票はお済みですか？



2019年度で現役員体制3年目となりました。2020年度からの新たな体制のための役員（評議員）選挙の投票が実施されています。正会員で昨年度までの会費を納付済の方に選挙人名簿と投票用紙・返信用封筒をお送りしました。

評議員定数は会則12条により選挙時の会員総数の10名に対し１名の割合で選出されます。今回は24名が選出されます。投票用紙が届いた方は、期限内の投票のご協力をよろしくお願い致します。

評議員選挙投票締切は4月5日（当日消印有効）です。

評議員決定後、評議員による互選選挙が実施され、理事・監事が決定します。

2019年度の会費納入について

２０１９年度の会費納入の書類を発送させていただきました。納入期限は**４月５日**となっております。学会賞への応募・大会発表、論文誌への投稿などは会費納付が条件となっております。充実した学会活動を展開するためにも、納入忘れのないようお願い申し上げます。会費の振込は下記の口座にお願い致します。

日本創造学会年会費納入先口座
ゆうちょ銀行（金融機関コード9900） 店番019 店名 019店（ゼロイチキュウ店）
当座 0126409 ニホンソウゾウガッカイ

■会員登録情報に変更がある方はお知らせ下さい■

年度がわりにともなう、住所・所属・連絡先・メールアドレス等の変更がある方は、学会事務局まで変更をお知らせ下さい。

ニューズレターやクリエイティブサロン等のお知らせは、電子メールで配信されております。登録アドレスは、皆様に有用な情報をお届けする窓口となっておりますので、よろしくお願い致します。

事務局メッセージ

4月1日、新元号が発表され、5月からは新しい時代が始まる。思えば昭和の終わりは突然やって来た。今、平成の終わりは混乱のないよう、計画的に粛々と準備されている。

平成の時代は情報通信技術等が飛躍的に進歩し、人々の暮らしを変えた。次の時代にもさらに大きな革新が生み出され、私達の生き方を大きく変えていくだろう。人間の創造はいつの時代も止まらない。 （事務局：比嘉）

日本創造学会 ニューズレター
2019年3月発行（№1）
日本創造学会事務局
発行人 ：田村新吾
編集担当：比嘉由佳里
〒272-0031 千葉県市川市平田
1－10－2
Tel 080－3465－6152
Fax 047－718－1747
e-mail：jcs-info@japancreativity.jp
http://www.japancreativity.jp/